野菜生産出荷近代化計画の概要②（変更日　令和３年３月３０日）

		５年後の見込み	産地の計画の概要
春キャベツ	渥美	作付面積 579ha→583ha 出荷量 31,900t→32,100t うち、ＪＡ出荷量 15,956t→16,700t	○広域連携による全国への計画的な出荷を行う。 ○加工・業務用需要に対応するため、品種の選定や大型鉄製コンテナによる出荷を推進する。 ○冬キャベツを組み合わせたキャベツ専作化を進め、経営の合理化による大規模経営農家の育成を推進する。 ○黄色灯を用いたヨトウムシ類の防除の普及を図り、農薬使用回数を削減する。また、ズームスプレイヤーの導入により防除に要する労働時間の短縮を図る。
冬キャベツ	渥美	作付面積 2,070ha→2,000ha 出荷量 85,700t→85,272t うち、ＪＡ出荷量 42,878t→43,062t	○広域連携による全国への計画的な出荷を行う。 ○加工・業務用需要に対応するため、品種の選定や大型鉄製コンテナによる出荷を推進する。 ○春キャベツを組み合わせたキャベツ専作化を進め、経営の合理化による大規模経営農家の育成を推進する。 ○後継者や担い手が確保できていない地域に対し、パートやアルバイトの安定的確保のため、雇用の斡旋体制の整備を図る。 ○特別栽培農産物の生産、加工・業務用への対応、希少性の高い品種の栽培などに特化した取り組みを行う。
	豊橋	作付面積 1,590ha→1,700ha 出荷量 70,200t→73,710t うち、ＪＡ出荷量 38,750t→40,687t	○広域連携による全国への計画的な出荷を行う。 ○加工・業務用需要に対応するため、品種の選定や大型鉄製コンテナによる出荷を推進する。 ○春キャベツを組み合わせたキャベツ専作化を進め、経営の合理化による大規模経営農家の育成を推進する。 ○ＪＡ作業受託による播種作業の省力化、パレットの活用による出荷作業の省力化、市の援農事業の活用による雇用労力の確保など、労働環境の改善に取り組む。
	豊川宝飯	作付面積 51ha→50ha 出荷量 2,256t→2,397t うち、ＪＡ出荷量 1,739t→1,848t	○広域連携による全国への計画的な出荷を行う。 ○加工・業務用需要に対応するため、品種の選定や大型鉄製コンテナによる出荷を推進する。 ○地元のAコープなどへ直接販売をして流通の簡素化、有利販売に努める。 ○品種や作付提案、就農計画の作成支援等きめ細かな支援により、担い手を育成する。
春だいこん	江南	作付面積 24ha→19ha 出荷量 1,200t→1,000t うち、ＪＡ出荷量 870t→780t	○生食用の出荷が中心で、中京市場への出荷が中心となっている。（他産地が品薄な時期に出荷できる春だいこん産地として市場からの引き合いは強い。） ○パレットを活用し、集荷場での荷下ろしの省力化を図る。 ○平成26年からＪＡ出資法人を立ち上げ、機械作業等を請け負い、兼業農家や高齢農家の労力を軽減し、新規就農希望者を法人で雇用して技術を習得させた後に就農させることで新規就農者の定着を図っている。
夏秋なす	岡崎額田	作付面積 21ha→21ha 出荷量 1,042t→1,116t うち、ＪＡ出荷量 699t→780t	○中京市場への出荷が中心となっている。 ○夏秋なす専作農家が64%と多く、次いで施設なすとの組み合わせが多い。 ○新規参入者に対し、就農初期に導入しやすい品目として夏秋なすを提案し栽培者の増加を図る。 ○単為結果性の品種導入及び苗の共同購入により栽培管理を省力化する。 ○肥培管理及び温度管理技術等基本技術の徹底により収量の底上げを図る。 ○契約取引について、通いコンテナの導入を維持、推進する。
冬春なす	西三河	作付面積 15ha→15ha 出荷量 1,896t→1,896t うち、ＪＡ出荷量 1,506t→1,506t	○　単為結果性品種「PC千両」「とげなし輝楽」の導入を進め（現在８０％）省力化を図っている。 ○リースコンテナを活用した契約取引を推進する. ○新規就農者の確保を図り、生産者の育成を図っていく。 ○炭酸ガス施用技術及び統合環境制御技術の導入、養液栽培の導入を推進する。
秋冬ねぎ	尾張西部	作付面積 35ha→25ha 出荷量 321t→254t うち、ＪＡ出荷量 177t→150t	○生食用の出荷が中心で、中京市場への出荷が中心となっている。 ○尾張地域特産の越津ねぎを生産。 ○越津ねぎは、柔らかく食味に優れるが、分けつが多いため移植作業が必要であり、一般的なねぎよりも栽培に労力を要する。また、柔らかな特性から収穫・調製作業にも労力を要する。 ○ＪＡ所有の収穫機がリースされており大規模生産者が利用している。今後、収穫期を利用した作業受委託を推進していく。 ○定植機について、農業機械メーカーと協力して実用的な定植機について開発を目指す。 ○調製作業については、ＪＡ出資法人が皮むき機を導入し、ＪＡ愛知北管内では皮むき作業の受託も開始している。 ○通いコンテナの導入を進め、出荷に係る労力の軽減を図る。